

歴史 | 探訪

~文化財を巡る~ ⑦

豊岡の文化財を紹介します。皆さんの身近にある文化財を見ていきましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

「美術工芸品(彫刻)」(その2)

仏像のうち千体仏を除いて、最も多く指定されているのが木造十一面観音像です。頭頂の正面3面が慈悲の表情、向かって右側3面が怒りの表情、左側3面が微笑みながら牙をむき、背面1面は大笑、頂上が悟りの表情をしています。これらは人間の喜怒哀楽を表現しているともいわれています。左手に紅蓮を挿した水瓶を持ち、右手は下に垂らしています。仏像によっては、本面と合わせて11面になる場合もあります。

木造十一面観音立像

(国指定)城崎町湯島・温泉寺



ヒノキの一木造で、像高195cm。秘仏とされている本像は、面相部などにノミの刃痕がくっきりと残っていて力強さを感じさせます。両眉がうねりをもってつながっているのが特徴的で、深く切れ込んだ胸部のくびれや、衣文の特徴などに古い要素が認められますが、全体的に穏やかな作風から平安中期の作とされています。

木造十一面観音像

(県指定)野上・帯雲寺



ヒノキの一木造で、像高222cm。明治時代に金箔が塗り替えられています。肩から胸部の厚みや腰の張り、衣文の彫の深さなど古い要素が見られますが、面相の柔和な表現などから、平安中期の作と考えられています。聖林寺(奈良県桜井市)の国宝十一面観音立像に似せて作られたのではないかとされています。

木造十一面観音像

(県指定)野垣



ヒノキの一木造で、像高172cm。内削りがなく、頭上11面も同じ材から削り出されているのは珍しいとされています。腰部を少し曲げて踏ん張る下肢の力強さがありながら、面相の厳しさが消えていることから、平安前期でも中期に近い時期に作られたと考えられます。地元で大切に保管されています。

木造十一面観音立像

(県指定)但東町西谷



カヤの一木造で、像高154cm。手足先などが継ぎ足され、彩色が施されるなど、かなり後世に手が加えられていますが、内削りがなく、重厚な表現や衣文のくっきりとした彫り方などに古さを残しています。像に厚みがないことから平安前期末に作られたとされています。この像も地元で大切に管理されています。

語句の解説

・秘仏…信仰上の理由で普段は人に見せない仏像。
※一木造(内削り)、衣文は、12月25日発行の第113号をご覧ください。

寺院などによっては、拝観できない場合もあります。

発行/豊岡市
07961231111
市長室 FAX 24-1004
編集/政策調整部秘書広報課
FAX 24-2575

〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL <http://www.city.toyooka.lg.jp>

(総合支所)
・竹野 ☎47-1111
・日出 ☎52-3111
・但東 ☎54-1000
・城崎 ☎42-0001
・日高 ☎54-1001